



足利市立第三中学校で農業者による講話を実施 【農業への理解促進みのりす】

令和3(2021)年2月5日
安足農業振興事務所

2月5日 足利市立第三中学校の学校行事「働く人に学ぶ会」と連携し、1年生(20名)を対象に、農業の理解促進等に向けた講話を行いました。

- ・講師は、いずみファーム代表 猪股和泉氏にお願いし、「農家(果樹園)のお仕事」という演題で、就農までの経緯、仕事の内容、なぜ農家になったのか、農家になった感想、農家の魅力、若い人に伝えたいことについて講話をしていただきました。

【講話内容】

- ・これまで、就農するまで様々な職業を経験。会社勤めの時、実家が果樹農家をしている同僚から農業者の収入が高いことや自由度が高いことなどの話を聞き、農家になることを決意。果樹農家の元で1年間研修を行った後就農し、6年目を迎える。
- ・3~4月に桃の摘蕾、梨の人工授粉、5~6月になっている実を1/10くらいに摘果。7月~10月に収穫と販売。11月~2月に翌年に向けて肥料をまいたり、枝の剪定をしている。
- ・農業参入には、資金・栽培技術・農地・農業機械・情報・経営に関する知識、PCのスキル、会計経理、重機操作の知識などが必要。全てが自己責任。自由度は高いが、良くも悪くもその結果は受け入れるしかない。気候や病害虫、機械トラブルなどの理由で何十万、何百万円もの収入変動が起きてしまう。これに動じないメンタルと計画性が必要。
- ・自分が園主(≒社長)なので、働く量(面積)、仕事のやり方、休みの取り方、作目や品種の選定、売り方、辞めどき等、全てが自分で自由に決められる。外で自然とふれあって仕事をしているので、健康的であり、会社員時代よりも体調が良くなった。
- ・農業は自由で伸びしろもあり、収入も増えてきて満足している。春~夏が忙しいので、秋冬は積極的に休みを取っている。ワークライフバランスを強く意識しており、高い収入と会社員以上の休日を両立させることが目標。農業は、きつい、儲からない、後継者がいないというイメージを払拭したい。
- ・農業を始めるハードルは低くはないが、年齢や資格、学歴などに関係なく、いつでも目指すことができることを覚えてもらえれば、十分かなと思う。普通に進学して、普通に就活をして、普通に社会人として働いた後、何らかの理由で“今とは違う道”に進みたくなった、もしそんな時が来たとしたら、農業、そんな選択肢もあったな、と思い出してください。

※生徒達から、台風などで枝が折れたときはどのように対応するのか、農業はどのような人が向いているのかといった質問や、食べ物に感謝したいといった感想も出て、農業者の話が生徒達の心に残ったのではないかと思います。

